

交

い

かいじあむ通信
kai

第55号

2022年2月4日発行
山梨県立博物館

江戸鯨と信州鯨(部分)
あいおいニッセイ同和損害保険蔵

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum



- 明暦三年 一六五七 **明暦の大火**
- 天明八年 一七八八 天明の大火
- 寛政四年 一七九二 雲仙普賢岳噴火
- 文化八年 一八一〇 江戸市ヶ谷谷町大火
- 文政十一年 一八二八 越後三条地震
- 文政十三年 一八三〇 文政京都地震
- 天保八年 一八三七 大塩焼け
(大塩平八郎の乱)
- 弘化四年 一八四七 **善光寺地震**
- 嘉永三年 一八五〇 安芸国大水
- 嘉永六年 一八五三 小田原地震
- 嘉永七年 一八五四 嘉永の大火

¹⁶⁵⁷ 明暦の大火（江戸）
江戸三大大火の一つで、最大の被害を出した。増上寺が諸宗山無縁寺回向院を建立、焼死者を弔う。江戸城の天守はこのとき焼失し、以後再建されなかった。



¹⁸⁴⁷ 善光寺地震（信濃）
善光寺御開帳時に発生。人的被害が大きく、門前町の大半を焼失。虚空蔵山が崩落して犀川をせき止め、のちに決壊して善光寺平一帯に大洪水を引き起こした。



¹⁸⁵⁴ 安政東海・南海地震
はじめに東海地震が関東地方から近畿地方を襲い、約三十二時間後に南海地震が発生。中部地方から九州地方に被害をおよぼし、太平洋沿岸地域を津波が襲った。



伝える—災害の記憶

あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料

2022年 3月11日(金) 5月9日(月)

- 安政二年 一八五五 安政江戸地震
- 安政三年 一八五六 安政江戸台風
- 安政五年 一八五八 安政の大火

¹⁸⁶² 麻疹・コレラ流行
夏に麻疹が流行し、追い打ちをかけるようにコレラが流行した。安政五年の流行時の数倍の死者が出たという。



- 文久二年 一八六二 麻疹・コレラ流行
- 元治元年 一八六四 元治の大火
- 慶応二年 一八六六 淀川大洪水

京阪地方暴風雨

¹⁹⁰⁷ 明治四十年水害

八月下旬、三つの低気圧が発生し、関西・中部・関東・東北の広い範囲に大雨が降り続いた。山梨県内では特に被害が大きく、二百名を超える死者が出た。



¹⁹²³ 関東大震災

九月一日、関東地方南部を震源とする地震が発生。東北から近畿に至る広範囲が揺れた。火災の被害も甚大で、約二十一万棟以上を焼失、死者は神奈川・東京などで十万人を数えた。



学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します



服装と持ち物に注目!

着ている服は中国のもの。無
準から授かった袈裟を入れた
鞆をさげ、手には天神の象徴
である梅の枝を持っています。



梅の枝

鞆

唐に渡った道真を描く!?

と どう てん じん そう さくげんしゅうりょう 策彦周良 賛 16世紀(室町時代)
渡唐天神像 南松院蔵

平安時代の貴族菅原道真は、大宰府に流され、亡く
なった後に神として崇められるようになりました。現在
は学問の神である“天神様”としてもよく知られてい
ます。この絵は、菅原道真が中国南宋時代の高僧で
ある無準師範のところに参じ、袈裟を授けられたとい
う説話をもとにして描かれたものです。



2022年 2月16日～3月4日
常設展「信仰の足跡」コーナー

この期間に会える!

この部分は“画賛”といって、
絵の余白に詩や歌が書かれ
ています。日本や中国では
古くから書と絵をあわせて
楽しむ風習がありました。

画賛を書いて いるのは?

室町時代後期の臨済宗夢
窓派の僧侶・策彦周良で
す。周良は遣明使節とし
て中国に渡るなどして活
躍したのち武田信玄に招
かれ、恵林寺の住職とし
て甲斐に滞在しました。
詩文に優れ、『策彦詩集』
などを残しています。

釜無川・御勅使川の治水のしくみがわかる!

しも じょうみなみ わり むら え ず
下条南割村絵図 (千野家文書) 天保14年(1843)

下条南割村(現在の韮崎市龍岡町)は、釜無川と御勅使川の合流部に位置しており、
多くの水害を受けてきました。江戸時代後期に作成されたこの絵図には、治水のために
設けられた将棋頭・十六石・かすみ堤(不連続堤)などが描かれており、両河川で長
年にわたって続けられてきた治水のしくみを読み取ることができます。

2022年 4月20日～6月20日

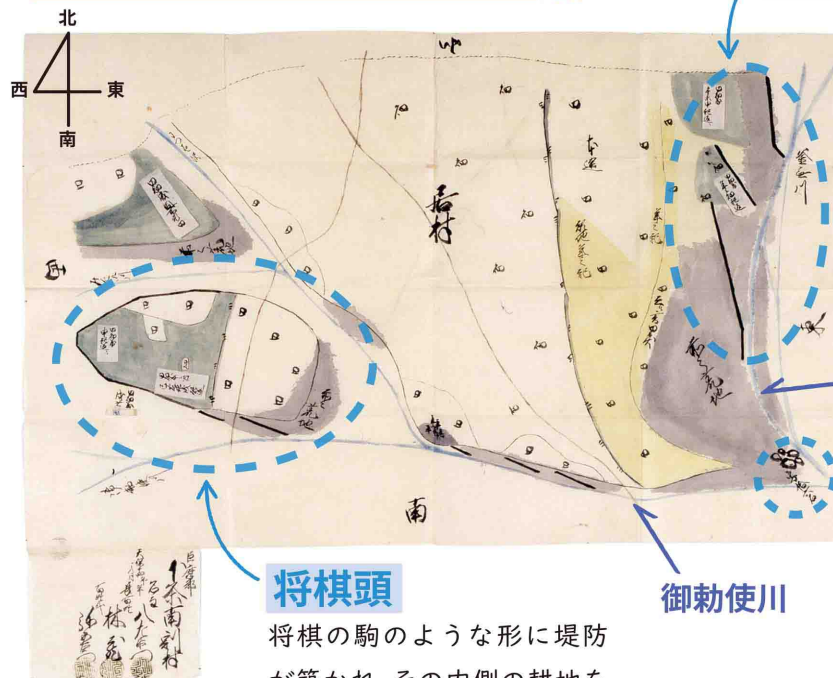
常設展「水に取り組む」コーナー

この期間に会える!



かすみ堤(不連続堤)

河川の増水時に
一時的に水を堤
の切れ目から外に
逃がし、堤防決
壊など大きな被害
が出ることを防ぎ
ました。



釜無川

十六石

御勅使川

将棋頭

将棋の駒のような形に堤防
が築かれ、その内側の耕地を
守っていたと考えられます。

釜無川と御勅使
川の合流部付近
に、多数の巨石を
配置していました。

常設展 テーマ展示

県立博物館では、約2か月
ごとにテーマを変えて、
常設展の展示替えをしています



「山梨の春は、桃と桜と信玄公」 2022.2.16[水]～4.18[月]
桜舞う春の中、山梨ゆかりの戦国武将、武田信玄にまつわる資料を紹介します。

「災いと人々 祈る・助けあう・乗り越える」 2022.4.20[水]～6.20[月]
感染症や自然災害などと、どう向き合っていくのか改めて考えます。

「ようこそ!かいじあむ動物ワールドへ」 2022.6.22[水]～8.22[月]
かつて人々は多くの「生き物」や「化け物」たちと一緒に暮らしていました。
資料や作品に隠された彼らを探してみましょう。

「資料でめぐる山梨の旅」 2022.8.24[水]～10.24[月]
展示室の資料をめぐって、わくわくする旅に出発!

シンボル展 **重要無形民俗文化財 天津司の舞**
900年の想いととともに (仮称)

2022.5.28 [土]~6.27 [月]

甲府市小瀬に伝わる「天津司の舞」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。人形の頭は鎌倉時代の作ともいわれ、舞とともに受け継がれてきました。本展では、天津司の舞の歴史や継承の取り組み等を紹介し、社会変動や災害により伝承文化の危機が叫ばれる今日、舞の継承に向けられた不屈の精神に触れてみてはいかがでしょうか。



御成道を行く天津司の舞の一行
内田宏撮影 昭和34年(1959)

企画展 **南極展** (仮称)

2022.7.16 [土]~9.5 [月]

厳しい自然環境によって隔絶された南極は、人類が定住しない唯一の大陸であり、地球に残された最後の謎のひとつです。本展では、山梨県出身者も関与したわが国の南極観測の歴史を紹介するとともに、南極の景観、動物に関する資料から、その自然環境の厳しさと美しさを示し、南極から得ることができる地球環境のメッセージを紹介します。



南極観測隊絵はがき(宗谷)(個人蔵)

企画展 **山梨の新聞 150年の歩み** (仮称)

2022.10.15 [土]~12.5 [月]

明治5年(1872)に甲府の内藤伝右衛門が創刊した「峡中新聞」(現在の「山梨日日新聞」)は、今なお継続発行されている最古の地方新聞として知られています。山梨の政治・経済・文化・スポーツなどを報じ続けてきたこの地方新聞の歩みをみることで、近現代の山梨の社会や暮らしの変化を知ることができます。峡中新聞創刊から150周年となるこの機会に、山梨に根付いた地方メディアの歩みを通して、県民の歴史を振り返り、明日を展望します。

シンボル展 **山梨県指定文化財 木造源頼朝坐像** (仮称) 2023.1.21 [土]~2.20 [月]

甲府市の善光寺に伝わる源頼朝像は、頼朝の肖像彫刻としては最古のものといわれ、真の頼朝の姿を伝える可能性が最も高い像として、近年注目を集めています。本展では、令和2年度に解体修理が行われた頼朝像について、修理で得られた情報なども含めて紹介します。

企画展 **印章一刻まれてきた歴史と文化** (仮称) 2023.3.11 [土]~5.8 [月]

山梨県における印章業は、水晶印に篆刻を行ったことから始まったといわれ、現在では全国一の生産量を誇ります。近年、デジタル化・オンライン化が進展する中で注目を集める印章ですが、こうした時代だからこそ、印章の役割や未来のあり方などについて歴史的、文化・芸術的な広い視点で改めて紹介し、考える機会とします。

イベントのご案内 2022.4月~9月

- 常設展スルーガイド** 定員制
常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00~11:30
- ボランティアによるお庭の見どころガイド** 定員制
四季折々の博物館のお庭を散策します。
開催日 4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17
時間 13:30~14:30
- かいじあむ古文書講座【1期】** 定員制
初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日(全3回) 4/23、5/28、6/25
時間 13:30~15:00
*原則として全3回参加できる方。申込:往復はがき(4月8日必着)
*7月以降、古文書講座【2期】【3期】を開催予定です。
- 古文書相談日**
申込不要ですが、事前のお手持ちの古文書についてご相談ください。のご連絡があれば対応がスムーズです。
開催日 5/15、9/18
時間 10:00~13:00
*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。

- あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば** 定員制
展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00~11:30
- かいじあむ子ども工房** 定員制
博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 4/9、5/14、6/11、7/9、8/13、9/10
*申込:電話(☎ 055-261-2631)開催日の1か月前から受付
- 館長トーク** 定員制
当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日(全6回) 4/17、6/19、8/21、10/16、12/18、2/19
時間 13:30~15:00
*原則として全6回参加できる方。申込:往復はがき(4月1日必着)
- その他イベント**
・かいじあむ こどもまつり 5/4・5
・夏休み自由研究プロジェクト 合同プレゼン 7/18(海の日) *会場:アイメッセ山梨
・かいじあむの夏まつり 8/14・15

往復はがきでの申込方法 下記をご記入の上、申込締切日(必着)までに当館までお送りください。
(1) 往信 表:当館郵便番号(406-0801)、住所(山梨県笛吹市御坂町成田1501-1)、館名(山梨県立博物館)
(2) 返信 表:①郵便番号、②住所、③氏名
(3) 往信 裏:①イベント名(必ずご記入ください)、②郵便番号、③住所、④氏名(ふりがな)、⑤電話番号

2022年						
4月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
伝えるー災害の記憶 3/11~5/9						
5月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				
重要無形民俗文化財 天津司の舞 5/28~6/27						
6月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		
7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						
8月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	
南極展 7/16~9/5						

- 休館日
 - 館長トーク
 - 古文書講座
 - 古文書相談日
 - 子ども工房
 - お庭の見どころガイド
 - その他イベント
- 各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。
日程や内容は事情により変更になることがあります。

かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な
話題をお届けします



資料閲覧室

常設展示室の改札に行く途中に資料閲覧室という部屋があることをご存じでしょうか。ここは博物館の図書室です。部屋の中には郷土のことを研究したり、博物館の展示の理解を深めたりするのに参考となる図書や雑誌類が置かれています。利用者用パソコンからは当館の収蔵品を検索することや、甲州文庫のデジタルデータの閲覧ができます。歴史資料の一部は実物を見ることもできますので、ご利用の際は、事前にご相談ください。



ご利用方法 (令和4年2月現在)

- ・開室時間：9:00～12:00、13:00～16:00
(12:00～13:00、16:00以降は消毒と換気のため閉室)
- ・座席の利用は1時間程度まで
- ・入室の際は、マスクの着用と手指の消毒をお願いします。
- ・歴史資料の閲覧を希望される方は、事前予約をお願いします。
- ・ご質問等は電話やメールでも受け付けています。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部利用を制限しています。

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*5/4・5は開館し、5/6に休館します。9/14～16は休館。

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*ご来館の際は、検温、マスクの着用などの感染症拡大防止対策にご協力ください。

かいじあむ通信「交い」第55号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

発行日: 2022年2月4日

編集・発行: 山梨県立博物館



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。

ホームページ2次元コード